

教え合い学び合うみんなの学校農園 バナナの移植

円福友の会顧問 吉田恒昭

(2016年8月4日記)

7月7日は七夕の日です。エコ村の夜の星はとってもきれいです。カンボジアの秋と冬の夜空には天の川もはっきり見えます。電気が普及していないエコ村の特権の一つですが子供も大人もこの特権には気が付いていません。さてこの日は校長先生の発案で、自宅にバナナの苗木・幼木がある児童達は苗木一本をみんなの学校農園に持ちよることができないかと相談されました。これを受けて、自宅が遠い児童はリヤカーや村で共有している小型耕耘機を利用して学校農園まで運びました。児童生徒達が力を合わせて農園の境界線上に一人では抱えられない大きなバナナの幼木を植えて行きました。何と全部で45本のバナナの幼木が移植されました。以下の写真で見るとかなりの労力のいる作業でした。

本当はバナナは木ではなく草なのです、果物ではなくて野菜なのです。バナナの実がなりましたら、皆さんにどうしてバナナは木ではなく野菜に分類されているかを写真でお見せしたいと思います。バナナ収穫期には児童達のお腹を大いに満たすこと間違いなしです。

この活動と成果は先生と児童達、そして児童の家族達が『みんなの農園』の意義を良く理解している証だと思います。農園で教え学ぶ実践的農法が少なからず児童の家庭に普及する可能性が大きいことが期待できます。

自助共助の精神奨励と支援こそがエコ村を明るくし、生計を向上させ、円福友の会のロゴにある『地球みんなであわせになろう』の実践に他ならないと思います。

